

## 動詞－結果補語複合語（VR）と時態

横山昌子

### Abstract

This paper discusses aspects involving verb-resultative complement (VR) compounds in Mandarin Chinese.

On many occasions, VR compounds are used in perfective situations with the perfective suffix *-le* (了), but never occur with the continuous suffix *-zhe* (着). And some VR compounds can co-occur with the progressive form *zai/zhengzai* (在/正在), while the others can not.

In this paper, I provide an analysis for such phenomena that concern occurrence of aspect forms in VR compounds: the inherent aspectual properties of VR compounds would restrict aspect forms that VRs can use. If a VR compound takes a [+degree] property, because it has degree to achieve the endpoint, then this can be used in the progressive.

キーワード：VR Compounds, アスペクト特性, 時相, 時態, 進行

### 1. 問題提起

「動詞－結果補語複合語」（以下、VRと呼ぶ）は、第一動詞（V）に持続動詞が用いられ、結果補語（R）に形容詞、または非意思性自動詞（非対格動詞）が用いられ動作の結果を表す。VRは意味構造的には使役構造を持ち、語彙的使役動詞として機能する。VRが構成する文を事象構造の観点から分析するならば、Vが原因となる先行事象を構成し、Rが結果事象を構成し、「原因－結果」の連鎖から使役の意味を生じると捉えられる。VRと時態（aspect）の関係では、VRは完了を表す時態助詞“了”を伴うことが多く、持続を表す“着”を伴うことはできないが、時間副詞“在／正在”と共に起して出来事が進行中であることを表すことができる。

- (1) 冰已经化为了水。(龚千炎 1995: 21)  
 (氷はもう解けて水になった。)
- (2) \*冰化为着水。(龚千炎 1995: 21)  
 (\*氷は解けて水になっている。)
- (3) 冰正在化为水。(龚千炎 1995: 20)  
 (氷はちょうど解けて水になるところだ。)
- また、不確定の経験を表す“过”を伴うこともできる。
- (4) 我解开过(这根)绳子。(龚千炎 1995: 21)  
 (私はこの縄を解いたことがある。)

このように、VRは進行を表す“在/正在”や経験を表す“过”と共に起るが、実際の使用頻度は少ないことが指摘されており、実際には“了”を伴うことが多い<sup>1</sup>。VRが多くの場合に完了時態の“了”を伴う理由については、VRは「動作行為の結果、ある状態になる」ことを表し、結果に意味に重点が置かれているため、結果の「完了」、「実現」を表現する意図から“了”が選択されると考えられる。意味の重点が結果に置かれていることにより、動作の過程に視点を合わせる持続態や進行態の選択が制限されると推測できるが、それではなぜ進行を表す“在/正在”とは共起できて、持続を表す“着”とは共起できないのか。このことを論理的に説明するためには、VRの持つ時間特徴について考察する必要がある。

本論では、初めに理論的枠組みとして、動詞を中心とした語彙的なアスペクト特性(時相)が、出来事の時態選択および制限に関係していること述べる。次に、VRのアスペクト特性と進行時態、完了時態の関係について考察する。進行時態の考察では、第一動詞(V)が持続動詞であるのに、VRが持続の局面を捉えられないことについて論理的な説明を行う。また、VRが持続の局面は捉えられないが、進行中であることを表すことができるのはなぜかという問題について本論の考えを述べる。

## 2. 先行研究

動詞の時間特徴の研究については、動詞の持つアスペクト特徴の違いに基づく分類が知られているが、代表的な研究としてはVendler(1967)の分類がある。Vendlerは、動詞を動詞に内在する時間特徴に基づき「状態」(state)、「活動」(activity)、「完結」(accomplishment)、「到達」(achievement)の四つの「場面タイプ(situation type)」に分類している。このような動詞

内部の時間特徴に注目して中国語の動詞を分析している研究としては、馬庆株（1981）、邓守信（1985）、陈平（1988）、龚千炎（1995）などの論述がある。陈平は、文において動詞やその他の成分が構成する純命題の意味に内在する時間特徴を「時相（phase）」構造と呼び、現代中国語の時間体系は、「時相」、「時態」、「時制」、の三つの構造から構成されると述べている。龚千炎は陈平と同様に、中国語の時間体系を「時相」、「時態」、「時制」、の部分体系が相互に関係する総合的体系と捉え、時相構造が文の表す時制や時態に選択可能性を提供しているという考えを提示した。両者の分析ではVRが構成する「場面タイプ」の設定に違いが見られる。以下では陈平（1988）と龚千炎（1995）の分類を詳しく見ていくことにする。

## 2.1 陈平（1988）の研究

### 2.1.1 「時相」

陈平は、中国語の時間体系は「時相」、「時態」、「時制」からなると述べているが、「時相」については次のように定義している。

「文の時相（phase）構造は、文の純命題の意味に内在する時間特徴が現れる。主に述語動詞の語彙の意味によって決定されるが、文中の他の成分の語彙の意味も選択や制約に関わり、特に目的語や補語の果たす役割は顕著である。」（陈平1988）

陈平のいう純命題の意味とは、文に含まれる“了、着、过”などの文法的時態成分や時制表現を除いた語彙成分によって表される時間的特徴を指している。すなわち、「時相」は「時態」や「時制」と結びつく前に内在する時間特徴であり、最終的な文が表す時間的意味の基礎的構造として位置付けられている。陈平は「時相」構造を、「±静態（static）」、「±持続（durative）」、「±完成（telic）」の意味特徴に基づき、次のような五つの「場面タイプ」に分類している。

(5)

	静態	持続	完成
I．状態（state）	+		
II．活動（activity）	-	+	-
III．完結（accomplishment）	-	+	+
IV．複変（complex change）	-	-	+
V．単変（simple change）	-	-	-

### 2.1.2 「複変」と「単変」

陈平の分類で注目されるのは、「複変」と「単変」の場面タイプである。Vendler の分類では、瞬間の変化を表す場面タイプは「達成」場面に分類されているが、陈平は中国語では瞬間の変化を表す動詞類に、段階的变化を表す動詞類があり、他の言語には見られない独自の場面タイプとして分類できると述べている。「複変」場面に現れる動詞は、「単変」場面に現れる瞬間動詞とは異なり、段階的变化成分 (grade term) と共起でき、変化の両極の間には漸次的過程の連続体 (continuum) があると分析している。「複変」場面に属する動詞としては、“改良”, “恶化”などの単独動詞の他に, “长大”, “拉长”, “缩短”, “展宽”, “放松”, “理顺”, “变好”などの「動詞+形容詞」からなる VR が含まれる。陈平は、このような VR の V は変化を表す動詞で、典型的成分としては“变, 长, 加, 拉, 缩, 扩”があると述べている。

(6) 两国经济实力上的距离正在逐年拉大。(陈平 1988 : 411)

(両国の経済力の隔たりは、まさに年々広がりつつある。)

「複変」場面の時相構造は進行中の過程を表現できるが、安定した持続場面を表すことができず“着”と共起できない。

一方、「単変」に分類されている動詞には, “死”, “断”, “倒”などの瞬間の変化を表す動詞, “坐”, “站”, “跪”など瞬間の動作を表す動詞の他に, 「動詞+動詞」(“打破, 推到, 掀翻, 学会, 吃完, 看见”) と「動詞+形容詞」(“磨好, 烧焦, 砸烂, 敲扁, 切碎, 写错”) の形式の VR が含まれる。「動詞+動詞」形式の VR が現れる文としては次のような例を挙げている。

(7) 俘虏跪倒在地, 嘴里不停地讨饶。(陈平 1988 : 413)

(捕虜は地面に跪き、ずっと許しを乞うている。)

「単変」場面は進行あるいは持続中の動作として表されないため、一般に「V+着」, 「在+V」の文型をとることができない。陈平の考察では, 「複変」場面は「-静態」, 「-持続」, 「+完成」の意味特徴を持ち, 「単変」場面は「-静態」, 「-持続」, 「-完成」の意味特徴を持つ。陈平は, 「複変」状況は、動作が開始されると完結点まで進展しその結果事態が変化するという過程を含むため、進行中であることを表すことができるが、動作と変化が一体化しているために一定の持続状態を含まないと述べている。また, 「単変」場面については, 「-静態」, 「-持続」, 「-完成」の意味特徴を持ち,

発生と完結が共に瞬時的であるため、時間軸上で開始点と完結点为重なり合っていると述べている。上記の時間特徴による分類表から、「複変」と「単変」の二つの場面タイプを分ける基準は、「±完成」の意味特徴であることがわかる。両者の違いは、「複変」は「+完成」の意味特徴を持ち、「単変」は「-完成」の意味特徴を持つことである。「単変」に属する瞬間動詞は、直感的には内部に完結点を持つと判定できるが、陈平は、瞬時の変化を表す動詞そのものが状態を表すため「-完成」の特徴を持つとしている。

## 2.2 龚千炎（1995）の研究

龚千炎（1995）は、場面タイプを次のように分類している。

(8)

	静態	動態	持続	完成
状態 (state)	+	-		
活動 (activity)	-	+	+	-
完結 (accomplishment)	-	+	+	+
実現 (achievement)	-	+	-	-

龚千炎の分析においても、瞬間動詞（VRを含む）は「-完成」の意味特徴を持つとされ、達成場面（achievement situation）に分類されている。龚千炎は、瞬間動詞が表す動作行為は発生するとともに変化して別の状態を実現すると述べていて、「瞬間性」と「実現性」をこの場面と他の場面を区別する特徴として挙げている。

## 3. 本論における理論的枠組み

### 3.1 本論における「時相」と「時態」の定義

本論では、「時相」と「時態」を次のように定義する。

#### ①「時相」

動詞にもともと備わっている時間特徴（語彙的なアスペクト特性）と文中の他成分の時間特徴の計算の結果によって決定される。時相構造は、場面（situation）の時態を捉える前の基本的な時間構造として提示される。

#### ②「時態」

場面の内的な時間構成の捉え方を表す。場面内部の「開始」、「過程」、「完結」のどの局面を捉えているか、またひとまとまりの出来事として捉えて

いるかによって区別される。中国語はこのような意味の区別を表すための特定の形式（“了，着，过”など）を持ち，時態範疇は文法化されている。

「時相」と「時態」の関係は，場面を表現する文に含まれる動詞やその他の成分の持つ時間的意味特徴が時態の選択に制限を与えているという関係にある。語彙的な時間特徴を表す「時相」は，局面の観察の仕方を制限し，可能な「時態」が選択される。文が表す時間概念は，「時相－時態－時制」の順に決定され，文の成立にはこれら三つの時間範疇が関係しているが，本論では「時相」と「時態」の関係のみに焦点を当てて議論する。また，中国語文法では，一般に「時態」とアスペクトという用語は同じ意味で用いられているが，本論では「時相」を構成する語彙的な時間特徴をアスペクト特性と呼び，「時態」の意味で用いられるアスペクトとは区別する。

### 3.2 場面タイプ

本論では，陈平（1988）の場面タイプの分類を基本とし，一部修正を加え次のように分類する。

(9)

	静態	持続	完結	段階
I . 状態	+			
II . 活動	-	+	-	
III . 完結	-	+	+	+
IV . 段階的到達	-	-	+	+
V . 瞬間的到達	-	-	+	-

陈平の捉え方に基づき「到達」場面を，「段階的到達」と「瞬間的到達」に区別する。これらは陈平の「複変」と「単変」に対応する。陈平（1988）と龚千炎（1995）では，「瞬間的達成」に属する瞬間動詞は「完結的」（telic）時間特徴を持たないと判定されているが，本論では，瞬間動詞は動詞内部に完結点を持つので「+完結」と判定する。また，新たに変化が「段階的（degree）」特性を持つかどうかを分類基準として導入し，「±段階」の項目を組み込む。

### 3.3 「完結的」(telic)

本論の考察において重要な概念である「完結的 (telic)」特性と時態の関係について述べておく。

#### 3.3.1 「完結的」(telic) と「非完結的」(atelic)

場面は、時相内部の時間構造に完結点を持つかどうかで区別される。

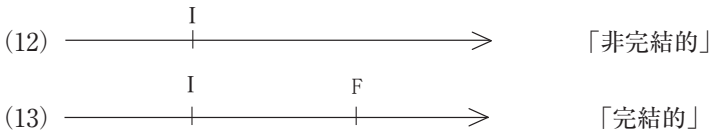
(10) 爸爸一直在写论文。(龚千炎 1995: 17)

(父はずっと論文を書いている。)

(11) 爸爸最近写了三篇论文。(龚千炎 1995: 20)

(父は最近三編の論文を書いた。)

(11) の文では、“写论文”(論文書く) という行為の数量が“三篇”(三編) であることが決定しているのので、この文が表す行為は三編の論文を書いた時点で完結する。一方、(10) の文では、論文をどれだけ書くのか上限がないので、“写”という行為は理論上いつまでも続けることができる。二つの場面の時相は、次のように図示できる。I は場面の「開始点 (inception)」, F は場面の「完結点 (finish)」を表す。



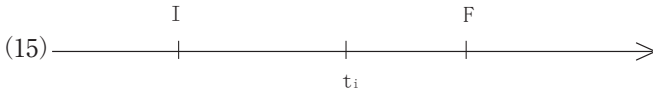
#### 3.3.2 「完結的」時相と進行

(11) の文の「三編の論文を書く」という行為は自然完結点を持つので「完結的」時相を持つが、この出来事は、開始点と完結点の間の経過時点に観察点を置くと、進行中の局面を捉えることができる。

(14) 爸爸最近在写三遍论文。(龚千炎 1995: 22)

(父は最近三編の論文を書いている。)

このように完結点以前の時点をつまえられるのは、この時相内部の完結点 F が出来事が終わるという意味を含まなければならない義務的な完結点ではなく、この出来事が変化しながら向かう限界点として機能しているからである。この文の出来事内部の時間構造は、次のように図示できる。



### 3.3.3 「瞬間的到達」場面における完結点

次に、「瞬間的到達」場面を表す文を見てみよう。

(16) 房间里的电灯灭了。(龚千炎 1995: 26)

(部屋の電灯が消えた。)

“灭”(消える)は瞬間動詞であり、この文は「電灯が消える」という瞬間的な出来事を表している。「電灯が消える」という出来事は「電灯が点いている状態」から「電灯が消えた状態」に瞬時に変化したことを表しているため、内部の時間構造は開始点 I と完結点 F が重なり合っている状態にある。このような出来事は、開始点と完結点の間の時間 ( $t_i$ ) を捉えられないので、出来事が進行中であることを述べることができない。(13)の文が表す「電灯が消える」という意味は、出来事は必ず完結点に到達しなければならず、そのため出来事内部の完結点 F は義務的であり、完結点が含まれていない文は非文になる。

(17) \*房间里的电灯在灭。(龚千炎 1995: 27)

(\*部屋の電灯が消えているところだ。)

このような瞬間性を表す出来事内部の時間構造を図で表すと次のようになる。



## 4. VR と進行時態, 持続事態

VR には、「進行」を表す“在 / 正在”と共に起る出来事が進行中であることを表すことができるものとできないものがある。本論では、進行を表すことができる VR は「段階的」特性を持ち、進行を表すことができない VR は「非段階的」(＝瞬間的)な特性を持つと仮定する。以下では、前者の VR を「段階的 VR」、後者の VR を「瞬間的 VR」と呼ぶことにする。これらの VR が現れる文では、「段階的 VR」が進行を表す時態副詞“在 / 正在”と共に起るのに対し、「瞬間的 VR」は“在 / 正在”と共に起れないとい



う傾向が見られる。以下では、「段階的 / 瞬間的」特性が、時態選択に関わっていることを考察する。

#### 4.1 「段階的 VR」

龚千炎 (1995) は、完結動詞は一旦開始すると完結点に向かって発展変化するため、進行を表す“在 / 正在”と共にできると述べ、完結動詞として次のような VR を挙げている<sup>2</sup>。本論では、このような VR を「段階的 VR」と呼ぶ。

- (19) 变为, 变成, 变作, 变做, 成为, 化为, 化做, 改为, 装作, 扮为, 扮做, 解开, 抛开; 拉长, 拓宽, 办好, 修好, 变好, 抓紧, 搞好, 堵死, 伸直, 磨光, 打通, 搞清, 理顺。

段階的 VR が進行を表している文には、次のような例がある。

- (20) 我正在解开绳子。(龚千炎: 19)  
(私はちょうど繩を解いているところだ。)
- (21) 这批人正在成为我们了的业务骨干。(陈平: 411)  
(この人たちはまさに私たちの会社の業務の柱になりつつある。)
- (22) 远处传来一阵喧闹, 斯道麦朗正在拉紧钢缆的松弛部分。(CCL コーパス)  
(遠くから騒々しい音が聞こえてきて、スタンマイローがちょうどワイヤーの緩んだ部分を引っ張ってぴんと張っているところだった。)
- (23) 那幢楼正一层一层往上盖, 天天在长高。(CCL コーパス)  
(あのビルは一階一階上に向かって建てられているところで、日々高くなっている。)
- (24) 他压根儿就没看见男孩儿的脸色在变白。(CCL コーパス)  
(彼は男の子の顔色が青くなっていくのが全く見えなかった。)
- (25) 彭德怀洗过澡, 正在擦干身子, 卫士来报告: “朱德总司令来了。”(CCL コーパス)  
(彭徳懐が入浴を済ませ、ちょうど体を拭いているところに、衛兵が報告に来た。「朱徳総司令官がいらっしゃいました」)

これらの文に用いられている VR は、意味上動詞 V が表す動作の結果、R が表す状態に変化することを表しているが、V と R が密接に結びついて一つのまとまりのある動作を表している。ここで挙げられている VR

が表す変化は、VR が表す語彙的な意味により開始点と完結点の間に一定時間を要する過程があると解釈される。この過程に内在する時間は、開始点から完結点に向かう方向性のある連続体あり、「段階的」特性を持つ。そのため、進行を表す“在、正在”を用いて進行を表すことができるが、必ず R が表す状態に変化するという意味を含むので、一つの動作として持続するとは見なされない。つまり、VR の V には持続動詞が用いられるが、V は R と結合し変化の意味を持つことから V がもともと持っている持続の特性は失われる。

たとえば、(20) の文は、意味的には「縄を解く」という動作を表す命題と「縄がほぐれる」という結果を表す命題が結合して「縄を解きほぐれる」という複合命題を合成している。これを、述語論理で表記すると次のようになる。VR は結合により使役の意味が生じし、この文は「縄を解いて縄がほぐれるようにさせる」という意味表すが、ここでは使役の意味は表記せず<sup>3</sup>、複合命題の命題の意味だけを記述する。

解ク～ガ ～ヲ ホグレル～ガ  
 (26) 解' (我, 绳子) & 开' (绳子)

この式は、VR が構成する複合命題の意味を表す。連言「&」により第一命題と第二命題の意味が同時に成立することを表示している。これに進行の“正在”の意味を加えると次のようになる。

(27) 解ク～ガ ～ヲ ホグレル～ガ  
解' (我, 绳子) & 开' (绳子) &  
 [+段階]  
 シテイル ～コトガ チョウド [進行]  
 有' 解' (我, 绳子) & 开' (绳子), 正在  
 ↑  
 認可

VR の意味を表す複合命題「解' (我, 绳子) & 开' (绳子)」は、アスペクト特性(時相)としては [-持続], [+完結] の特性を持つ。これは、持続動詞“解”が瞬間動詞“开”と結合して、完結動詞 VR を構成することで、持続動詞“解”が本来持っている「+持続」特性が消去され、かつ結果補語 R によって「+完了」特性が加わったためである。第三命題は、「私がちよ

うど縄を解いているところである。」という進行の意味を表す。「+段階」特性により進行時態が認可されるので、この VR は進行を表す時態副詞“正在”と結合することができる。ここで注意すべきは、この進行時態を表す“正在”は、「解’ (我, 绳子) & 开’ (绳子)」という複合的事態が続いていることを表しているのではなく、「开’ (绳子)」という「完結」に向かって進展する経過の一場面を表していることである。

段階的 VR が表す場面は、「開始点」と「完結点」を持ち、これらは意味上密接に結合し、ひとまとまりの出来事として解釈される。そのため、場面内部の時間構造に関わることができず持続を捉えられない。このような [-持続] の特性は、持続を表す時態“着”の選択を制限する。

(28) \*我解开着绳子。(龚千炎: 21)

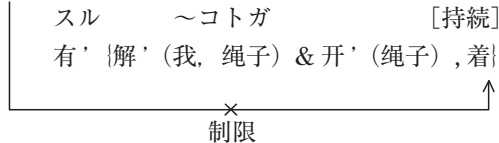
日本語では「私は縄を解いている」といえるが、中国語ではこの文は成立しない。

このように VR を含む文は“着”を用いて持続を表すことができない。“着”が制限される状況を述語論理で表記すると次のように記述できる。

(29) 解ク ~ガ ~ヲ ホグレル ~ガ

\*解’ (我, 绳子) & 开’ (绳子) &

[-持続]



#### 4.2 「瞬間的 VR」

一方、龚千炎は、瞬間動詞は非持続性動詞なため“在 / 正在”と共に起できないと述べ、瞬間動詞に次のような VR を含めている。本論では、このような VR を「瞬間的 VR」と呼ぶ。

(30) 看见, 打破, 跌倒, 吃完, 掀翻, 看到, 见到, 取到, 收到, 拿到, 接到, 领到, 遇到, 烧焦, 写错。

このような VR を含む文としては、次のような例が挙げられている。

(31) 那只杯子打破了。(龚千炎: 26)

(あのコップは壊れた。)

(32) 他跌倒了。(龚千炎: 26)

(彼はつまずいて倒れた。)

瞬間的 VR は瞬間的な出来事を表し、開始点と完結点を持つが、開始点と完結点が重なり合っていて、完結点へ向かう経過を捉えることができないため「-段階」特性を持ち、進行を表す“在 / 正在”と共起できない。

(33) \*那只杯子在打破。(龚千炎：27)

( \*あのコップは壊れつつある。)

(34) \*他在跌倒。(龚千炎：27)

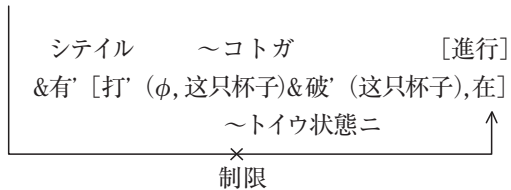
( \*彼はつまずいて倒れているところだ。)

これら文は非文であるが (33) の文の論理構想を述語論理で表記すると次のようになる。

(35) 叩キ ~ガ ~ヲ 壊レル ~ガ

\*有' [这只杯子, 打' ( $\phi$ , 这只杯子)&破' (这只杯子)]

アル ~ガ [-段階]



また、「-持続」特性により持続を表すことができないので、持続を表す“着”と共起できない。

(36) \*那只杯子打破着。(龚千炎：27)

( \*あのコップは壊れつつある。)

(37) \*他跌倒着。(龚千炎：27)

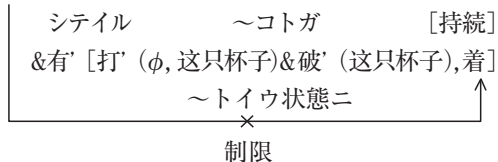
( \*彼はつまずいて倒れつつある。)

(36) の文が不適格文になる状況を述語論理で表記すると次のようになる。

(38) 叩キ ~ガ ~ヲ 壊レル ~ガ

\*有' [这只杯子, 打' ( $\phi$ , 这只杯子)&破' (这只杯子)]

アル ~ガ [-持続]



## 5. VR と完了時態

Chao (1968) は、VR は限られた状況<sup>4</sup>を除き、通常「完了時態」(perfective)を表す接辞“了”を伴うと述べている。

(39) 你把画儿挂歪了。(Chao : 438)

(あなたは絵を傾けて掛けてしまった。)

(40) 再等一个钟头就等腻了。(Chao : 439)

(もう一時間待ったら待ちくたびれてしまう。)

Chao は、“了”が使われない状況の一つとして、「進行 (progressive)」を表す接辞“着”<sup>5</sup>が用いられる例を挙げているが、ほとんど同じ意味を“了”を用い表すことができると述べている。

(41) 他会睁着眼睛老不眨巴。(Chao : 439)

(彼は目を開いたまま瞬きしないことができる。)

(42) 他会睁开了眼睛老不眨巴。(Chao : 439)

(彼は目を開いて瞬きしないことができる。)

ただし、Chao は、中国語ではこのように明らかに持続する動作であっても、“了”を用いた言い方がより頻繁に用いられると指摘している。このように、VR が通常「完了」を表す時態助詞“了”を伴うことについて、時相と時態の関係から考察する。

### 5.1 「完了時態」(perfective)

「完了」(perfect)の意味的区別は、場面を構成する「開始」,「過程」,「完結」という局面をひとまとまりの全体として捉えることにある。中国語でこのようなアスペクトを表す形式には、時態助詞“了”<sup>6</sup>がある。VRの語彙内部の時間特徴(時相)は、Vが開始点、Rが完結点を表示し、両者は意味上密接に結びついていてひとまとまりの動作を表している。このようなVRの性質は、動作内部の局面を捉えることを制限し、場面を一つのまとまりのある出来事として指し示す時態形式と最も自然に結びつく。VRが通常“了”を伴うのは、VRに内在する時間特徴(時相)が、場面のアスペクトを表示する形式である“了”(時態)に写像される<sup>7</sup>からである。以下ではVRの時相構造と“了”の関係について具体的に考察する。

### 5.2 「段階的VR」と“了”

段階的VRと“了”が共起している文には、次のような例がある。

- (43) 我解开了绳子。(龚千炎 1995 : 21)  
 (44) 冰已经化为了水。(龚千炎 1995 : 21)  
 (45) 秋天到了, 树叶都变红了。(《汉语动词-结果补语搭配词典》: 187)  
 (46) 那个孩子变好了。(《汉语常用动词搭配词典》: 31)

これらの VR は、開始点と完結点を持つ。たとえば、(43) の文の意味を分解して捉えると、“我解绳子”(私が繩を解く)という動作の結果“绳子开”(繩がほぐれる)という状態になることを表し、“解”という動作が開始点、“开”という結果状態が完結点となっている。しかし“解”と“开”は意味上密接に結びついて、“解开”という一つの動作として機能するため内部の時間構造に持続的の局面はない。このような時相特徴が“了”に写像され、それによりひとまとまりの出来事が捉えられ、出来事が「完了」することを表す。この文の意味を述語論理で表記すると、次のようになる。VR は「～させる」という使役意味を表すが、ここでは式が複雑になるため命題の意味のみを表記する。

- (47) 解キ ～ガ ～ヲ ホグレル ～ガ スル  
 解’ (我, 绳子)&开’ (绳子)&有’{解’ (我, 绳子)  
 ～コトガ [完了]  
 &开’ (绳子), 了}

第一式の「解’ (我, 绳子)」は動作を表し、第二式の「开’ (绳子)」が結果状態を表す。二つの命題は連言 (&) で連結され(ここで時相が完結する), これによりこれらの命題が同時に成立することを表す。第三式では、第一式と第二式が連結した複合命題が“了”と結合し、出来事が「完了」することを表す。

### 5.3 「瞬間的 VR」 と “了”

- (48) 那只杯子打破了。(龚千炎 1995 : 26)  
 (49) 这张图描错了, 再改一改把! (搭配词典 : 67)  
 (50) 他的腿跌伤了。(常用动词 : 115)  
 (51) 这孩子很皮实, 摔倒了从来不哭。(搭配词典 : 77)

これらの VR は瞬間的変化を表し、VR 内部の開始点と完結点が重なっているため、内部に経過の時間構造を持たない。このような時相構造は、持続と進行の局面を捉えることができず、ひとまとまりの出来事として捉えることに時態の選択が制限されるため、必然的に「完了」時態を表す“了”

と結合する。瞬間動詞が表す時相構造は開始点と完結点为重なり合う点的なものなので、この時相特徴が写像された“了”は変化の「実現」として捉えられる。(48)の文を述語論理で表すと、次のようになる。式は談話情報(話題)と使役意味は表記せず命題の意味のみ記述する。

- (52) 叩キ ～ガ ～ヲ 壊レル ～ガ スル  
 打' (φ, 那只杯子) & 破' (那只杯子) & 有' {打'(φ, 那只杯子)  
 ～コトガ [完了]  
 & 破' (那只杯子), 了 }

第一式の「打'(φ, 那只杯子)」は動作を表し、第二式の「破'(那只杯子)」は結果状態を表す。二つの命題が連言(&)で連結され(点的な時相を表す)、これらの命題が同時に成立することを表す。第三式は、この複合命題が時態を表す“了”と結合し、出来事(変化)が「実現」したことを表す。

## 6. VRのアスペクト特性と時量

「V + (了) + 時量詞 + 了」の形式に現れる時量詞は、動作そのものの持続時間を表す場合と動作の結果の持続を表す場合がある。時量詞がどちらの持続を現すかは、動詞の語彙的アスペクト特性(時相)によって決まる。動詞が時量詞を伴う文としては、たとえば次のような例がある。

- (53) 我心疼了好一阵子。(龚千炎 1995: 16) <心態動詞－状態の持続>  
 (54) 灯笼在那儿挂了三天。(龚千炎 1995: 17) <定位動詞－結果の持続>  
 (55) 老李听报告听了一下午。(刘月华・他 2001: 390) <動作動詞(活動)－動作の持続>  
 (56) 水化成一个月了。(龚千炎 1995: 21) <段階的動詞－結果の持続>  
 (57) a. 这几本书我读了一个月了, (还没有读完。)(龚千炎 1995: 24) <動作動詞(完結)－動作の持続>  
 b. 这几本书我都读了一个月了, (早把内容给忘了。)(龚千炎 1995: 24) <動作動詞(完結)－結果の持続>  
 (58) 邻居家的老狗死了两天了。(刘月华・他 2001: 364) <瞬間的動詞－結果の持続>

二つの持続と場面タイプの対応を表にすると、次のようにまとめられる。

(59)

	状態			活動	完結	到達	
	関係動詞	心態動詞	定位動詞			段階的動詞	瞬間的動詞
動作持続	-	-	-	+	+	-	-
結果持続	-	-	+	-	+	+	+

上記の表で示したように、段階的動詞と瞬間的動詞は、結果持続のみを意味するという点で同じ性質を持つ。これは、両者が動詞内部に完結点を持つという点で一致しているからである。しかし、段階的動詞と瞬間的動詞の表す結果持続は異なる意味を表す。以下では、それぞれの結果持続が表す意味とアスペクト特性の関係について考察する。

### 6.1 「段階的 VR」と時量

「段階的 VR」が時量詞を伴っている文には次のような例がある。

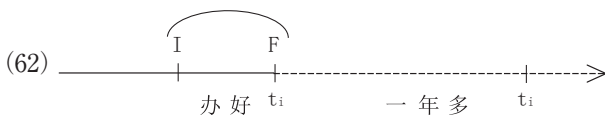
(60) 这件事已经办好了一年多了。(龚千炎 1995: 22)

(この事はきちんと処理してもう1年あまりになる。)

(61) 房庄的马路已经拓宽了半年了。(龚千炎 1995: 22)

(房庄の路地は広くなってもう半年になる。)

(60) の文は、VR“办好”(きちんと処理する)の結果状態である“好”(きちんとしている)という状態が一年あまり続いていることを表している。また、(61) の文は VR“拓宽”(拡張して広がる)の“寬”という状態が半年続いていることを表す。これを図で示すと、次のように表せる。



I と F は複合動詞 VR の内部の時間構造を表し、I は動作 V の開始点を表し、F は R が表す完結点を表す。V (“办”, “拓”) は持続動詞であるが、VR は動作と結果が密接に結びついているため、V の持つ「+持続」のアスペクト特性は消去され、{I,F} 内部の持続を捉えることができない。そのため、文中に現れる時量詞は、VR の内部の完結点を持つ結果状態 (“好”,



“寛”) が続くことを表す。結果状態は、時量詞が表す持続時間  $\{t_i, t_j\}$  内のどの時点においても均質 (homogeneous)<sup>8</sup> であり、この持続は静的持続を表す。(60) の文を用いて説明すると、 $t_i$  の時点は VR “办好” の内部の完結点 F であるが、VR が“了”と結合し、さらに時量詞“一年多”と結合することによって静態的持続の開始点に変換される。“办好”に“了”が接辞されることで“办好”は出来事として完結 ( $t_i = \text{完了}$ ) するが、結果状態を表す“好”に内在する「+静態」特性が時量詞と結びつくことで静態的な持続時間を表している。このような結合関係を論理式で示すと次のように表記できる。

- (63) 有' {办' ( $\phi$ , 这件事) & 好' (这件事), 了 } & 有' {了, 好' (这件事) } & 有' [有' {了, 好' (这件事) }, 一年多] & 有' [有' [有' {了, 好' (这件事) }, 一年多], 已经] & 有' [有' [有' [有' {了, 好' (这件事) }, 一年多], 已经], 了]

第一式の第1項の「办' ( $\phi$ , 这件事) & 好' (这件事)」は VR が表す複合命題で、「誰かがこの事を処理する」と「この事がきちんとしている」という動作と結果を表す二つの命題が同時に成立することを表す。第2項の“了”によって VR がある状態になる(変化する)ことが「完了」したことを表す。アスペクト的には、ここで VR 内部の「開始－完結」の完結時相が完了の時態に写像される。第二式の「有' {了, 好' (这件事) }」は、変化の「完了」により「きちんとしている」という状態が存在していることを表している。この状態は静的な持続特性を持つ。第三式で、時量の“一年多”と結合することによって「量化」され、変化の完結点を結果持続の開始点に変換し、同時に完結点が確定し、VR の表す結果状態が「一年あまり続いている」ことを表す。第四式の第2項の“已经”は、事態が参照時点においてすでに発生している(已然)ことを表す。第五式の第2項の“了”は事態の発生を表す。

## 6.2 「瞬間的 VR」と時量

到達 (achievement) 場面を構成する動詞は、「瞬間的 VR」を含め瞬間動詞であるが、瞬間動詞が時量詞を伴っている文として、龔千炎 (1995: 28) は次のような例を挙げている。

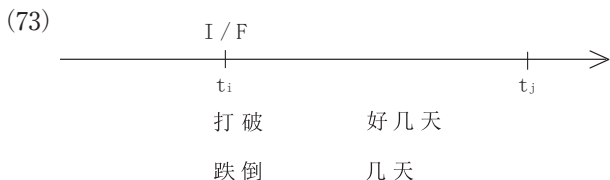
- (64) 大爷的那头老黄牛死了两个月了。  
(旦那のあのアカ牛が死んで二か月になる。)

- (65) 院子里那堵墙塌了好几天了。  
(庭のあの壁が崩れ落ちて何日にもなる。)
- (66) 小孩子醒了一刻钟了。  
(子供が目覚めて十五分経つ。)
- (67) 我的钱包丢了一星期了。  
(私の財布がなくなって一週間になる。)
- (68) 房间里的电灯灭了一小时了。  
(部屋の電灯が消えて一時間になる。)
- (69) 厨房里的那只煤气罐爆炸了好几天了。  
(台所のあのガスボンベが爆発して何日にもなる。)
- (70) 那只杯子打破了好几天了。  
(あのコップが割れて何日にもなる。)
- (71) 他跌倒了几天了。  
(彼が転ん—で何日か経つ。)

(64)～(69)では単独の瞬間動詞が用いられ、(70)、(71)では瞬間的VRが用いられている。龔千炎は、これらの動詞はある状態から別の状態へ変化することを表すと捉え、時量詞は変化後の状態が続くことを表すと述べている。上記の文が表す状態の変化は、(64)では「生きている状態→死んでいる状態」、(65)では「正常な状態→崩れ落ちている状態」、(66)では「眠っている状態→目覚めている状態」、(67)では「持っている状態→失った状態」、(68)では「明るい状態→消えている状態」、(69)では「正常な状態→爆発後の状態」、(70)では「完全な状態→破損した状態」、(71)では「正常な状態→倒れた状態」と捉えられる。龔千炎の見解では、「瞬間動詞+時量詞」は変化後の状態の持続を表すので、それぞれ「死んでいる状態」、「目覚めている状態」、「失った状態」、「消えている状態」、「爆発後の状態」、「破損した状態」、「倒れた状態」が続いているという解釈になる。しかし、これらの文の時量詞は、実際には変化後の状態の持続(結果の持続)を表していない。たとえば、(64)の文は「死んでいる状態が二か月間続いている」ことを述べているのではなく、「死んだという出来事と発話時点までの時間的距離が二か月ある」ということを述べている。結果の持続を表している文と比べるとその違いは明白である。

- (72) 赵虎在这儿站了三个小时。(戴耀晶 1995: 48)  
(趙虎がここで三時間立っている。)

この文は、立つという動作の結果（すなわち「立っている姿勢」）が現実の空間に三時間存在することを表している。この文の「立っている姿勢」は、3時間のどの時点においても均質的に存在するが、瞬間動詞が現れる文では、物や形態がある時間の間ずっと存在することを表していない。(70), (71) の「瞬時的 VR + 時量詞」が表す時間は、次のように図示できる。



$t_i$  は「打破」、「跌倒」が表す出来事が発生した時間を表し、 $\{t_i, t_j\}$  は出来事の発生後の経過時間を表す。この解釈に基づき、(70) の文の表す意味を論理式で表すと次のようになる。

(74) 打' ( $\phi$ , 那只杯子) & 破' (那只杯子) & 有' {打' ( $\phi$ , 那只杯子) 破' (那只杯子), 了} & 过' [有' {打' ( $\phi$ , 那只杯子) & 破' (那只杯子), 了}, 好几天] & 有' [过' [有' {打' ( $\phi$ , 那只杯子) & 破' (那只杯子), 了}, 好几天], 了]

「打' ( $\phi$ , 那只杯子) & 破' (那只杯子)」は、「打破」が表す「誰かがあのコップをぶつける」と「あのコップが割れる」という命題が同時に成立することを表す。「打破」は、瞬間動詞で時相構造中では開始点と完結点が重なり合い確定できないが、第三式の第2項で時態助詞「了」が生起し、「あのコップが割れる」という出来事が実現することを表す。出来事が実現したことで、完結点 ( $t_i$ ) が時間軸上で確定する。第四式は、「あのコップが割れてから、何日も過ぎる」ことを表す。ここで完結点 ( $t_i$ ) が開始点となり「三天」という時間量により新たな完結点 ( $t_j$ ) が決定される。最後の式に生起する「了」は「あのコップが割れてから、何日も過ぎる」という出来事が発話時点において発生したことを表す。

## 7. 結びにかえて

本論では、VR と結びつく時態形式について、VR 内部の時相構造（語彙的アスペクト特性）の観点から分析した。VR は時相特徴の違いから、「段

階的 VR」と「瞬間的 VR」に分けることができる。これらの VR は選択できる時態形式に違いがある。両者は、“了”, “过”を伴えるが, 持続を表す“着”を伴えないという共通の性質を持つが, 「段階的 VR」が進行を表す“在 / 正在”を伴えるのに対し, 「瞬間的 VR」はこれを伴うことができないという点で異なっている。本論では, これらの違いについて, VR の時相構造が持つ「開始点」と「完結点」の在り方と「段階的」アスペクト特性の意味を用いて論理的説明を行った。少数の VR については, “着”と共起できることが指摘されている<sup>9</sup>が, このような例についての考察は今後の課題としたい。

## 註

- 1 Chao (1968: 438-441)、李臨定 (2011: 276) 参照。
- 2 龔千炎は、動作行為とその結果の結合により作られている動詞を完結動詞と呼んでいる。龔千炎が挙げている完結動詞には、“扩大”、“缩小”、“提高”、“降低”など密接な結合の複合語として機能しているものも含まれているが、これらの語は本論では考察の対象としないため、除外した。また、“跑来”、“爬上”などの方向補語をとる動補式複合語については“开”だけを含め、それ以外は除外した。
- 3 VR の使役の意味構造についての分析は、横山 (2016a, 2016b) 参照。
- 4 Chao (1968: 438-441) は、“了”が用いられない状況として、(1) 否定、(2) 進行、(3) 不定の過去 (4) 命令 (5) 方向補語 (6) 可能補語 (7) 連体修飾 (8) 評価形式 (9) 引用形式を挙げている。
- 5 Chao (1968) は、接辞の“着”について進行を表すと述べている。
- 6 中国語の時態標識“了”には、時態助詞の“了”(了<sub>1</sub>)と語気助詞の“了”(了<sub>2</sub>)あり、これらが表す時態義については研究者によって意見の違いはあるが、一般に了<sub>1</sub>は「完了」(ときには、「実現」を表すこともある)を表し、了<sub>2</sub>は「実現」(または「変化」, 「新しい事態の出現」を表す)とされている。
- 7 「時相」が「時態」に写像されるという考え方は、松村 (2017: 78) による。
- 8 戴耀晶 (1991) は、出来事の開始の変化、過程の変化、終息の変化を観察することができない静態的出来事は、均質的 (homogeneous) 時間構造を持つと述べている。
- 9 王媛 (2011) 参照。

## 参考文献

- 陈平 1988. 〈论现代汉语时间系统的三元结构〉, 《中国语文》第 6 期。
- 戴耀晶 1991. 〈动词后“了”的语义分析〉, 胡裕树, 范晓主编《动词研究》, 41-64 页, 开封: 河南大学出版社。
- 邓守信 1985. 〈汉语动词的时间结构〉, 《语言教学与研究》第 4 期, 第一届国际汉语教学讨论会讲话, 论文选登。

- 方立 2000. 《逻辑语文学》。北京：北京语言大学出版社。
- 龚千炎 1995. 《汉语的时相时制时态》。北京：商务印书馆。
- 郭锐 1993. 〈汉语动词的过程结构〉, 《中国语文》第 6 期。
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 李临定 2011. 《现代汉语句型 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 马庆株 1981 〈时量宾语和动词的类〉, 《中国语文》第 2 期。
- 王媛 2011. 〈现代汉语动结式的进行体〉, 《语言科学》第 10 卷第 1 期。
- 潘文娉 1980. 〈谈谈“正”“在”和“正在”〉, 《语言教学与研究》第 1 期。
- 袁毓林 2001. 〈述结式配价的控制 - 还原分析〉, 《中国语文》第 5 期。
- 赵远任 2005. 《现代口语语法》吕叔湘译。北京：商务印书馆。
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京：商务印书馆。
- バーナード・コムリー 1988. 『アスペクト』 山田小枝訳。東京：むぎ書房。
- 石村広 2011. 『中国語結果構文の研究 - 動詞連続構造の観点から -』。東京：白帝社。
- 岩本達億 (編著) 2008. 『事象アスペクト論』。東京：開拓社。
- 影山太郎 2011. 『動詞の意味と構文』。東京：大修館書店。
- 加藤宏紀 2002a. 「現代中国語の「時制」の意味研究」, 『人文研究』第 146 集。神奈川大学人文学会。
- 加藤宏紀 2002b. 「現代中国語の「時相」と「時態」の意味研究」, 『言語と文化論集』第 9 号：pp.167-183。神奈川大学大学院外国語学研究所。
- 松村文芳 2017. 『現代中国語の意味論序説』。東京：ひつじ書房。
- 鷲尾龍一・三原健一 1997. 日英比較選書 7 『ヴォイスとアスペクト』。東京：研究社。
- 横山昌子 2016a. 「現代中国語の使役構文の意味研究」(博士論文)。神奈川大学。
- 横山昌子 2016b. 「現代中国語の使役を表す VR の論理構造」, 『人文研究』No.189：45-77。神奈川大学人文学会。
- Chao, Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Comrie, B. 1976. *Aspect*. Cambridge University press.

#### (用例の出典先)

- 王砚农・焦群・庞颀 1987 《汉语动词 - 结果补语搭配词典》。北京：北京语言学院出版社。
- 王砚农・焦庞颀 1984. 《汉语常用动词搭配词典》(英语注释)。北京：外语教学与研究出版社。
- 《汉语动词用法词典》1999. 孟琮・他编。北京：商务印书馆。
- CCL コーパス (CCL 语料庫)。北京大学中国语言学研究中心。